

## 1 この科目の構成について

教 科	地理歴史	科 目	日本史B	単 位	4単位
対象コース	カレッジコース	対象クラス	3年2・3組文系		
使用教科書	詳説日本史B 山川出版社				
使用副教材	山川ビジュアル版 日本史図録 山川出版社、テキスト 二高の日本史				

## 2 この科目の目標・学習内容・学習方法について

学 習 目 標	—この科目を学習して何を身に付けてほしいのか—
	日本の歴史が、ひとり日本人の自発的・内発的な力によって形成されてきたのではなく、原始・古代・中世においては中国・朝鮮との政治的・文化的関係のなかで、また近代史・現代史においては国際社会のなかで形成されてきたことを考えていきます。正しい知識や相対的な思考力を身に付け、「歴史をみる眼」を持つことによって、昨今の国際情勢の激変、それともなう日米関係や国内の政治・経済・教育の変化、さらには地域社会の変化に対して、客観的な判断力を養ってもらいたいと思います。なお、これらの学習目標を効果的に進めるために、生徒の自主性を引き出し、能動的に取り組ませるアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開していきます。
学 習 内 容	—この科目で学習する大まかな内容—
	①原始・古代史は、日本の歴史が主に中国・朝鮮との政治的・文化的関係を通して形成されてきたことを学びます。 ②中世史・近世史は、平安末期に誕生した在地領主制が、やがて集権的な織豊政権・徳川政権（幕藩領主制）へ変化していったことを学びます。 ③近代史は、後発資本主義国としての日本が歩んだ歴史を、対外戦争や議会政治、産業革命などと関連させて学びます。 ④現代史は、戦後の冷戦下で、アメリカの国際的な戦略のなかに位置づけられた日本の歴史を、政党政治や国民の民主化運動、高度経済成長などを中心に学びます。
学 習 方 法	—この科目を学校と家庭でどのように学習すればいいのか—
	(1) 学校 1) 授業用テキストに、歴史用語の書き込みを行い、また頻出重要文章にアンダーラインを引いて重要箇所の確認をすることが必要です。 2) 授業で説明された歴史用語や頻出重要文章を確実に理解するとともに、授業の流れを把握することも必要です。 (2) 家庭 1) 授業で教わった内容の復習を毎日欠かさず行う。 2) 各単元毎に問題プリントを宿題として課すので、必ず解答して提出すること。 3) 模擬試験直前に過去問（進研模試・全統模試など）を宿題として配付する場合があるので、提出すること。

## 3 この科目の評価方法について

評 価 方 法	—何をを使って評価するのか—
	①定期考査：年4回の定期考査（授業の内容から）。 ②宿題：問題プリントを各単元ごとに配布するので、解答して提出。 ③授業への取り組み：積極的な発言、テキストの書き込み・マーカーなど、基礎的な作業。 ④提出物：定期考査毎に授業用テキストの回収とテスト直しを提出。
評価における定期考査の割合	
	70%

## 4 この科目の評価の観点について

評 価 の 観 点	—この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか—
	(1) 関心・意欲・態度 歴史上の人物や出来事について関心を持って授業にのぞんでいるか。教科書・プリントへの記入を確実にしているか。 (2) 思考・判断 アジアや欧米など世界史の中の日本史という視点で歴史をとらえているか。また、歴史的背景とともに歴史用語を捉えているか。 (3) 技能・表現 教科書や資料集の図版・史料の理解ができているか。 (4) 知識・理解 習得した歴史用語を使い、文字情報としての試験に対応できているか。

年間学習計画		—この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか—	重視する評価の観点					
期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	
1	4	第9章 近代国家の成立						
		1. 開国と幕末の動乱	①日米和親条約と日米修好通商条約の内容と、その後の貿易について理解させる。 ②幕末の政局を、特に長州藩・薩摩藩の動向を中心にして理解させる。	●	●	●	●	
	5	2. 明治維新と富国強兵	①幕府の滅亡から維新政府の成立過程を、廃藩置県・地租改正・徴兵令などに注目しながら理解させる。〈道徳教育を実施〉 ②政府主導により殖産興業・文明開化が推進されていった過程を理解させる。	●	●	●	●	
		3. 立憲国家の成立と日清戦争	①征韓論争後の自由民権運動の流れと、それを抑圧する薩長藩閥政府の動向を理解させる。 ②明治憲法の制定と初期議会について、日清戦争と関連させながら理解させる。	●	●	●	●	
	6	4. 日露戦争と国際関係	①立憲政友会の成立にいたる藩閥政府と民党の接近について理解させる。 ②日露戦争およびその後の韓国併合と満州地域への進出過程を理解させる。	●	●	●	●	
		5. 近代産業の発展	①日清戦争と日露戦争を契機にして起こった産業革命について、軽工業・重工業を明確に区別して理解させる。 ②労働組合や社会主義政党の発展と、それに対する政府の弾圧政策を理解させる。	●	●	●	●	
	7	6. 近代文化の発達	【第1回考査】 ①日清戦争・日露戦争前後の国権論の伸長について理解させる。 ②教育の国家主義化の流れを段階的に理解させる。 ③明治文学・芸術の各分野について、当時の日本人の精神・思想の変化と関連させながら理解させる。〈道徳教育を実施〉	●	●	●	●	
		第10章 二つの世界大戦とアジア						
	2	8	1. 第一次世界大戦と日本	①第一次護憲運動や米騒動に果たした大衆運動、および原内閣の積極政策を理解させる。 ②第一次世界大戦を契機にした中国・ソ連への進出、大戦景気について理解させる。	●	●	●	●
			2. ワシントン体制	①ワシントン体制下の幣原協調外交について理解させる。 ②第二次護憲運動以後の政党政治、「憲政の常道」について理解させる。	●	●	●	●
			3. 市民生活の変容と大衆文化	①大正デモクラシーを支えた思想・文化について理解させる。 ②大正文学、特に反自然主義やプロレタリア文学について理解させる。	●	●	●	●
			4. 恐慌の時代	①大正時代以後の戦後恐慌・震災恐慌・金融恐慌について、段階的に理解させる。 ②協調外交と強硬外交の変遷を、政党政治・軍部の動向と関連させながら理解させる。	●	●	●	●
5. 軍部の台頭			【第2回考査】 ①満州事変後の関東軍の暴走、および国内における国家改造運動、国際連盟脱退を関連させながら理解させる。 ②世界恐慌後の高橋是清蔵相の積極財政について理解させる。 ③二・二六事件後の陸軍の勢力拡大について理解させる。	●	●	●	●	
6. 第二次世界大戦	①日中戦争後の中国への進出、総力戦、統制経済について理解させる。 ②ドイツ・イタリアとの同盟とアメリカの経済制裁を関連させながら太平洋戦争の開始の背景を理解させる。 ③戦時下の国民生活の崩壊、アジア・太平洋地域への侵略の実態（従軍慰安婦、中国・朝鮮人の強制連行や徴兵制など）について理解させる。 ④沖縄戦、学徒出陣について理解させる。 ⑤広島・長崎への原爆投下について、連合国軍や国内の軍部の動向と関連させ、さらには戦後の日本と国際政治を見通して理解させる。〈道徳教育を実施〉	●	●	●	●			
9	第11章 占領下の日本							
	1. 占領と改革	①GHQの占領下での民主化・非軍国主義化、経済の混乱状況について理解させる。 ②日本国憲法の制定過程とその意義について、アメリカの対アジア戦略やGHQの動向と関連させながら理解させる。	●	●	●	●		
		2. 冷戦の開始と講和	①冷戦の激化とアジアへの社会主義勢力の浸透、および占領政策の転換を関連させながら理解させる。 ②吉田茂内閣のもとで主権回復・安保条約調印がなされた意味を理解させる。	●	●	●	●	

		第 12 章 高度成長の時代 1. 55 年体制	①デタント、多極化という国際政治の変遷のなかで日本が歩んだ過程を理解させる。 ②55年体制下での保守安定政権、日米同盟の確立と高度経済成長、沖縄復帰を関連させながら理解させる。		●	●	●
		2. 経済復興から高度成長へ	①アメリカ主導のIMF体制下で、日本が経済復興を遂げていった過程を理解させる。 ②高度成長の功罪について、消費革命・エネルギー革命、四大公害訴訟を中心に理解させる。	●	●	●	●
		第 13 章 激動する世界と日本 1. 経済大国への道	①ベトナム戦争によるアメリカ経済の悪化、ニクソン＝ショック後のIMF体制の崩壊、石油ショックなど国際経済の動向を理解させる。 ②第1次石油危機を契機に安定成長に転じたことを理解させる。 ③田中角栄政権以後の日中関係、「小さな政府」化の動きを理解させる。	●	●	●	●
10		2. 冷戦の終結と日本社会の動揺	①冷戦の終結と、それが国際政治や国内政治へ与えた影響について理解させる。 ②55年体制の崩壊の背景を、自民党による長期安定政権による腐敗構造と関連させながら理解させる。 ③現在でも平成不況が続くなか、今後、日本あるいは生徒個人が歩むべき方向についてともに考える。〈道徳教育を実施〉	●	●	●	●
			【第3回考査】				
11		大学受験へ向けての問題演習	①センター試験で満点、難関私大で80～90点まで得点できるレベルまで指導する。 ②授業での問題演習と合わせて、個人添削指導により個々のレベルに応じた対応をする。	●	●	●	●
12			【第4回考査】				
3	1		①センター試験終了後は、難関私大用の歴史用語・頻出資料を追加指導する。 ②個々の生徒の受験校の過去問分析から、受験日までのやるべき内容の確認を行い、あわせて個別指導を行う。	●	●	●	●